

海外移住 資料館だより

日本人の海外移住は150年以上の歴史があります。JICA横浜 海外移住資料館では、海外へ移住し、それぞれの国や地域で新しい文明作りに参加してきた日本人移民の歴史と、日系コミュニティについて広く理解を深めてもらうことを目的に、さまざまな資料を展示しています。

■発行元：JICA横浜 海外移住資料館
神奈川県横浜市中区新港2-3-1 JICA横浜2階
Tel:045-663-3257(代) URL: <https://www.jica.go.jp/jomm>
■編集発行人：JICA横浜 海外移住資料館 館長 中根 卓

＼リニューアル・オープン！／ 新しくなった海外移住資料館へ ようこそ！



開館から20年、そしてさらなる未来へ向けて

世界/日系社会のできごと

- 2002年 ● FIFAワールドカップ日韓合同開催
- 2008年6月 ● ブラジル日本人移住100周年
- 2008年9月 ● リーマンショック
(在日日系人求職者の多くが職を失う)
- 2009年 ● ペルー、ポリビア日本人移住110周年
- 2011年3月 ● 東日本大震災
- 2014年 ● FIFAワールドカップブラジル大会
- 2016年8月 ● リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック開催
● パラグアイ日本人移住80周年
- 2018年 ● ブラジル日本人移住110周年
● ハワイ元年者移住150周年
- 2019年 ● ペルー、ポリビア日本人移住120周年
● 新型コロナウイルス感染症が流行し始める
- 2021年 ● 東京2020オリンピック・パラリンピック開催



2009年 企画展「海を渡った花嫁移民」をご覧になる皇后陛下(当時)



2020年10月 くまモン来館
熊本移民をテーマにした企画展のPRで



2021年 コロナ禍のためオンラインでのイベントを開催



2003年 開館1周年記念特別講演会(梅棹忠夫氏)



2008年 日本人ブラジル移住100周年記念式典(パラナ州)

映するとともに、多文化・多様性の象徴とも言える日系人の歩んできた足跡を、よりわかりやすくお伝えしています。また、ユニバーサルデザイン[※]を取り入れることにより、誰もが気軽に訪れ、楽しんでいただけるようになりました。

この先の20年、そしてさらなる未来へ向けて、移民の歴史から未来を思い描くことのできる施設を目指して、これからもさまざまな発信を続けていきます。

※ユニバーサルデザイン：「Universal」＝「普遍的な、全体の」という言葉が表すように、「すべての人のためのデザイン」を意味し、年齢や性別、体格、障害の有無、国籍などにかかわらず、できるだけ多くの人にとってわかりやすく、利用可能できるようにデザインすること。



2008年 リーマンショック 日系ブラジル人等によるデモ行進



2011年 東日本大震災 日系研修員たちによるがれき撤去のボランティア



2016年 パラグアイ日本人移住80周年記念式典



海外移住の日イベントの様子



海外から祖先のルーツを探しに訪れる来館者も



2017年 入館50万人を達成

海外移住資料館のできごと

- 2002年10月4日 ● 開館
- 2003年10月4日 ● 開館1周年記念特別講演会
「日本人と新世界」開催
講師：梅棹忠夫氏
(国立民族学博物館顧問・名誉教授)
- 2004年4月8日 ● 天皇后陛下ご来館
- 2006年9月25日 ● 秋篠宮殿下ご来館
- 2009年12月4日 ● 皇后陛下ご来館
- 2012年11月1日 ● 「JICA横浜 海外移住資料館
開館10周年記念シンポジウム」開催
- 2013年3月5日 ● 入館30万人達成
- 2013年4月1日 ● 「歴史資料等保有施設」として指定
- 2015年9月11日 ● 入館40万人達成
- 2017年8月25日 ● 入館50万人達成
- 2019年12月6日 ● 入館60万人達成
- 2020年3月～7月 ● コロナ禍の影響で休館
- 2021年12月～ ● リニューアル工事のため臨時休館
- 2022年4月26日 ● リニューアルオープン!

ごあいさつ

JICA横浜 海外移住資料館は、海外移住の起点となったハワイを含む北米と、中南米の国々への日本人移住の歴史と日系人の暮らし等を紹介するため、2002年に開館いたしました。以来、延べ60万人以上の方にお越しいただき、たゆまず変化を続ける横浜の街と共に歩んでまいりました。

国境をまたぐ人の移動が当たり前となった現代では、様々なルーツを持つ人が共に暮らしています。多文化共生社会の実現が一層求められる中、かつて移住先で互いの文化を尊重し、共存・共栄を目指した先達や、世界で活躍する日系人の姿は示唆に富んでいるのではないのでしょうか。

開館20周年の節目を迎えるにあたり、移住者・日系人と日系社会の過去と現在をより分かりやすく伝える資料館を目指して、常設展示の一部リニューアルを行いました。さらに、すべての人に楽しんでいただけるよう、体験型展示の充実化や多言語化、点字ブロック、点字解説や音声ガイド等を導入しました。

この先も皆さまに多くの学びを提供できる場となるよう館員一同、一層努めてまいりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

JICA横浜
海外移住資料館
館長 中根 卓



「海外移住資料館の役割とは？」

武蔵大学社会学部教授 アンジェロ・イシ先生に聞きました

僕の専門ゼミでは「グローバリゼーション」「メディア」「移民」などをキーワードにしていて、よくゼミの学生たちと海外移住資料館を訪れます。横浜のグローバルな側面といえば「中華街」は誰もが思い浮かべるのですが、残念ながら日本からブラジルへ渡った移民のことは、ほとんど誰も思い出してくれません。だから、資料館の見学をきっかけに、今、日本に大勢の日系人の子孫が来ていることや、その背景には「移民の歴史」があることを知ってほしい。そして、言葉の壁や文化の違いなど、移住者が直面したであろう課題が、現代にも共通していることにゼミ生たちに気づいてもらいたいと思っています。

海外移住資料館は、移民の存在を「可視化」させ、移民に対する関心のスイッチを入れる装置としての役割があると思っています。訪れる人たちが移民に対する想像力を膨らませ、頭だけの理解ではない「情的理解」を促すきっかけになり得ることからも、海外移住資料館は、多文化共生の意識づくりにおいて無限の可能性を秘めていると思います。

ゼミの学生たちと。後列中央がアンジェロ先生。



海外移住 資料館 館内 マップ

Universal design

すべての人が
楽しめる展示に
なりました！
※詳しくは中画へ

-撮影スポット
-触れる展示
-音声ガイド

11

開墾シアター

迫力の3面スクリーン！
パラグアイへ移住した一家の物語を通じて、イグアス移住地の発展を紹介しています。

5

アリアンサ移住地の開拓風景

巨大な大木を、斧やノコギリなど人力のみで切り倒していた開拓時代。ここでは3D写真が撮れるよ。開拓移民になりきって撮影してみよう！

8

ララ物資

アメリカの
お土産を
お持ち帰り

ハワイへの官約移民

9

戦後移住のはじまり

7

リドレス運動

6

花嫁たちの海外移住

3

世界移住マップ

12

イグアス移住地のジオラマ

10

移民の七つ道具

14

日系人・日系社会の変遷と現在の姿

4

海外渡航への道のり

13

映像で知る「アグロフォレストリー」

2

県別移住者マップ

1

館内マップ

受付・インフォメーション

企画展示室

様々なテーマの企画展示を
年に数回開催しています。
お楽しみに！！

体験学習コーナー

グループなどでもご利用いただける体験学習スペース。ワークシートの記入や、検索端末を使った移住者のルーツ探しなどにもおすすめです！

「ローズフェスティバル」は、「バラの町」という愛称を持つアメリカ・オレゴン州の町、ポートランドで毎年5月下旬～6月上旬に開催されるお祭りで、1907年から続いている歴史あるバラの祭典なんだ。

1920(大正9)年、近郊に住む日本人農夫たちが、このお祭りに自分たちが育てた野菜や果物で山車を作って参加したところ、見事一等賞を受賞したそうだよ！

野菜山車(ベジタブル・フロート)

来館者をお出迎えする大きな野菜山車のレプリカ。背景の写真(1920年=大正9年当時のローズフェスティバルのパレードの様子)がカラーになって、迫力満点！

START!

野菜・果物の屋台

日本人移民が栽培したさまざまな野菜や果物を紹介しているコーナー。クブアスやカシューなど、南米特有のフルーツが新たに加わってカラフルに！ラグビーボールみたいな形のスイカは、どのくらい重たいのかな？持ち上げて実際の重さを感じてみよう！

リニューアルした海外移住資料館の展示を徹底解剖！

1 リアルによみがえる当時の情景

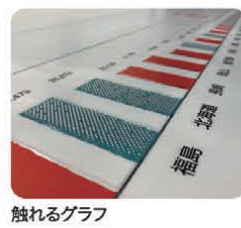
カラー写真になった展示の背景

「ローズフェスティバルの野菜山車」「ハワイのサトウキビ畑」「雷生のくらし」「最後の移民船にっぽん丸」や「よるすや」「胡椒・棉花の栽培風景」など、展示の背景のモノクロ写真をAI技術によりカラーになって生まれ変わりました。当時の情景が生きて、よりリアルによみがえります。



2 どの県から、どのくらいの人が海外へ移住したのかな？

都道府県ごとの移住者数が一目でわかる立体的な県別移住者マップ。リニューアルに伴い、視覚障害のある方にも県ごとの移住者数を感覚的に知っていただける、触れるグラフが登場しました。移民を多く出した県の当時の情報や、特徴、ゆかりの日系人などについても知ることができます。



3 人類の歴史は移動の歴史でもある！

世界移住マップ

人類の誕生以来、人々は新天地を求めて移動と定住を繰り返し、新たな文明や文化を作り上げてきました。新しくなった世界移住マップでは、人類誕生から続く移住の歴史を紹介しています。

人類の歴史は移住の歴史でもあります。日本人はいつごろ、どこへ移住したのでしょうか。人類の移住の流れと日本人の海外移住の歴史をたどってみましょう。



4 旅立ちの形は人それぞれ

海外渡航への道のり

「移住」と一言でいっても、その背景や方法は人それぞれ。大型農園などと何年間という労働契約を結んで移住した人、先に移住した家族や親戚、知り合いのつてを頼って移住した人、何の縁もないままに、夢を抱いてとにかく海外を目指した人もいました。

ここでは、移住の歴史や移住先での生活模様を紹介する展示の入口として、戦前の日本人のさまざまな移住の形について紹介しています。



5 3D写真であなたも開拓移民に！

ブラジル・リアンサ移住地の開拓風景を再現したコーナーが、撮影スポットとして生まれ変わりました！

現代のように、便利な電動の道具や重機などない時代。初期の移民は斧やノコギリなどの人力のみで、そびえたつ巨木に立ち向かいました。ここでは、そのスケールの大きさを実感できることでしょう。開拓移民になりきって大木を切り倒す瞬間をバシヤリ！来館記念の1枚としてぜひ撮影してみてください！



6 花嫁たちの海外移住

写真花嫁・戦争花嫁たち

独身で移住した男性移住者たちの結婚相手として、日本からたくさんの独身女性が海を渡りました。お見合い写真や文通のみで結婚した「写真花嫁」や、戦後、日本に進駐していたアメリカ軍兵士などと結婚し海外へ嫁いだ「戦争花嫁」など。花嫁として移住した女性たちにまつわる新設コーナーです。



7 リドレス運動*について知ろう！

アメリカ政府からの謝罪と補償

第二次世界大戦中、日系人の多くが「敵性外国人」として、住んでいた土地からの強制立ち退きと収容所生活を余儀なくされました。それは、アメリカで生まれ、アメリカ国籍を持つアメリカ人として生きて来た二世たちも例外ではありませんでした。戦後、収容所からようやく解放されても、家や財産を失いゼロから生活を立て直さなければならなかった人たちが大勢いました。日系人に対する強制立ち退きと収容政策の誤りについて、アメリカ政府に謝罪と補償を求め、日系人の名誉を回復するためのリドレス運動について紹介する新設コーナーです。

「リドレス運動」って聞いたことある？英語の「redress」は「是正する、救済する、回復する」という意味なんだけれど、第二次世界大戦中の「日系人強制立ち退き・収容政策」によって被った損害に対して、日系人がアメリカ政府に誤りを認めて補償することを求めた戦後補償運動のことなの。1970年から始まったこの運動によって、1988年に補償法が成立し、アメリカ政府から公式な謝罪と一人当たり2万ドルの個人補償を獲得することができたんですって。



8 「ララ物資*」ってなんだろう？

敗戦国日本への海外からの救援物資

「ララ物資」というのは、ララ(Licensed Agencies for Relief in Asia=アジア救援公認団体の頭文字)の名前でアメリカから日本に贈られた、食料や医薬品、衣服、学用品などをはじめとする大量の救援物資のことなんだ。支援の輪は北米だけじゃなく中南米各地へも広がり、日系社会からもたくさんの支援物資が寄せられたんだよ。



第二次世界大戦で敗戦国となり、深刻な物不足と食糧難に直面していた日本に対し、海外から「ララ物資」として多くの救援物資が届けられました。届けられた物資の総額の約20%にあたる、およそ80億円もが、各地の日系人からの支援だったと言われています。ここでは、海外日系社会の祖国日本を想う気持ちと、その結束力の大きさを知ることができます。

9 海外移住の中断と、戦後移住のはじまり

時代ごとに解説しているパネルコーナー

海外移住の歴史を時代ごとに解説しているパネルコーナーも、その一部をリニューアル。第二次世界大戦の開戦によって、日本人移住者・日系人がどのような影響を受けたかを紹介するIV期「海外移住の中断」と、戦後の日系社会および戦後移住について紹介するV期「戦後移住のはじまり」では、それぞれに展示パネルを一新しました。

IV期では、日系人に対して行われた強制立ち退き・収容政策についてや、収容所での暮らしぶり、日系人のアメリカへの忠誠心を確かめる「忠誠登録」、日系人部隊として知られる第442連隊、さらには北米だけでなく中南米の日系人が戦時下に置かれていた状況などについて紹介。V期では日本の敗戦をめぐって起きた南米日系社会での混乱や、再開された中南米への移住などについて、より見やすく、より詳しく説明しています。



10 移民の七つ道具 ~わたしは何を持って行ったでしょう？~

海外移住者の携行品展示

移住先へ持って行ったトランクや柳行李を積み上げた展示コーナーも、新しくなりました。「私は何を持って行ったでしょう？」というコーナーでは、ボックスの中に隠された、移住者の携行品を推理してみようというもの。どんなものが入っているのでしょうか？

「もし自分だったら何を持って行っただろう？」そんな想像をしながら、ぜひボックスを開いて触ってください。



11 迫力の開墾シアター

3面スクリーンに上映される移民の物語

巨大な3面スクリーンには、南米パラグアイに移住した移民の物語が上映されます。ジャングルを切り開き、畑を作り、種をまき、作物を栽培し、やがて移住地が街へと発展していく過程を知ることができます。イグアスの滝や、広大な大豆栽培の農地、どこまでも続く赤土の道など、現在のイグアス移住地の様子も迫力満点の映像でお楽しみください。



12 触ってみよう！イグアス移住地のジオラマ

触れるジオラマ模型の展示

「移住地って実際にはどんなところなんだろう？」ここでは、パラグアイのイグアス移住地の全体像を知ることができるジオラマ模型を展示しています。日本人会の会館や学校、診療所、農協、レストランや商店などを中心に、移住者の住居、その先に広大な農地や牧草地が広がる移住地の様子が手に取るようにわかります。リニューアルでは、手で触れて移住地の発展を感じることのできる、触れるジオラマが追加されました。



13 トメアスー農協のアグロフォレストリー

映像で知る「アグロフォレストリー」

「アグロフォレストリー」という言葉を聞いたことがあるかと思いますが、「Agriculture(農業)」と「Forestry(林業)」を組み合わせた言葉で、農業と林業お互いの良さを最大限に活用し、森林を伐採することなく農作物や家畜を育て、同時に森林再生も目指すというもの。ブラジル北部にあるトメアスーという日本人移住地で行われているアグロフォレストリーの様子を、新たに動画で紹介しています。「アグロフォレストリー 森を作る農業 ~アマゾン熱帯林との共存~」(上映時間6分)



14 「日系人」「ニッケイ人」「Nikkei」って何だろう？

日系人・日系社会の変遷と現在の姿

このコーナーでは、1908年から始まったブラジルへの集団移住の時代から、戦後「コロンニア」と呼ばれていた一世を中心とする日系社会の発展、そして、二世、三世への世代交代が叫ばれるようになった1980年代を経て、多様化の時代を迎えた現代まで、ブラジルの日系社会の移り変わりを例にあげて解説しています。



「日系人」「ニッケイ人」はまた「Nikkei」って何だろう？日本国内のニッケイ・コミュニティの広がりについても紹介しているこのコーナーは、多文化共生社会の実現に向けたひとつのヒントになるかもしれません。ブラジル出身のマルシアさん(歌手・タレント)、セルジオ越後さん(サッカー解説者)、魁聖一郎さん(大相撲力士)などのコメントにも注目です！



音声ガイド (QRコード)

音声ガイドで非対面型の展示案内も充実

ボランティア・スタッフによる案内の他に、QRコードをかざすことで流れる音声ガイドが新たに追加されました。非対面型の展示案内として、ぜひ活用ください。



学校や団体利用にもおススメ! ～海外移住資料館活用ガイド～

海外移住資料館は、これまでも多くの学校や団体のみなさまにご利用頂いてきましたが、リニューアルして更に使いやすくなりました! 教職員の方、引率の方々がもっと当館を活用しやすくなるようなポイントをご紹介します。ぜひご利用ください。

2019年度の団体利用実績

小学校	中学校	高等学校	大学・専門学校	特別支援校	一般団体
17	49	31	44	8	84

横浜にゆかりのある展示

日本人の海外移住は、横浜から始まりました。また、戦後の海外からの支援物資は横浜港に届きました。国際色豊かな横浜の過去と現在を、移住の歴史を通して学ぶ事ができます。



沖縄系日系人が多く暮らす横浜市鶴見区についても紹介している



明治時代、横浜港周辺にあった移民館を紹介しているコーナー

ララの記念碑は、資料館から徒歩2分!!

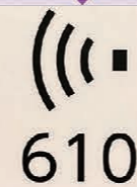


触ってみよう! 聞いてみよう!

触れて聞いて楽しむ事が出来る展示を、新たに設置。音声ガイド、点字ブロック、点字解説等を導入しました。



点字解説



音声ガイドは、このマークが目印!

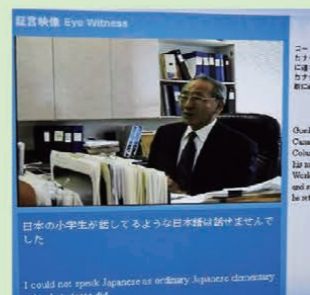


ここでしか見ることが出来ない証言映像

常設展示室内では、「移住した時の思い出」「国内・外に住む日系人のインタビュー」「戦争中強制収容されていた経験を持つ日系人のインタビュー」といった、ここでしか見ることが出来ない各種証言映像を上映しています。多文化共生社会の実現へのヒントが見えてきます。



群馬県大泉町でデザイン事務所を営むブラジル出身の日系二世、平野美パウロ氏



カナダ・バンクーバー在住の日系二世、ゴードン・カドタ氏(故人)

大人数を収容できるスペース



B1階・体育館



4階・セミナールーム

JICA横浜には大人数(100人程度)を収容できるスペースがあり、学習スペース等としてご利用いただけます(要予約)。

SDGsと日本人の海外移住

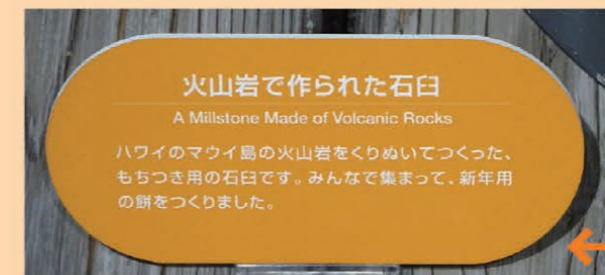
日本人の海外移住とSDGsの関連性を学ぶことができるコーナーはSDGsマークで解説しています。JICA横浜の1階フロアではSDGsに関する展示を行っているほか、2階のライブラリーではSDGs関連書籍の貸し出しも行っています。



農業と林業を組み合わせたアグロフォレストリーは、農作物と一緒に森も育てます。アマゾンの生態系を維持しつつ、持続可能な農業生産システムを開発させていきます。

子どもたちの味方、オレンジキャプションを探せ!

下のような子ども向けの解説文(オレンジキャプション)が設置されました!ポイントごとに分かりやすい表現で子どもたちに語りかけています。どこにあるかな?とゲーム感覚で探してみるとより興味が増しますね。



火山岩で作られた石臼

A Millstone Made of Volcanic Rocks

ハワイのマウイ島の火山岩をくりぬいてつくった、もちつき用の石臼です。みんなで集まって、新年用の餅をつきました。



小さなお子様も大歓迎!

小さな頃から「ミュージアム体験」をしていると、大人になってもミュージアムへの敷居は低いのだそうです。いつもとはちょっと違う空間で、見たことのない展示物を見る事は、子どもたちの知的好奇心をくすぐるかもしれません。ぜひお気に入りの展示物を見つけてみましょう!

教育現場の先生方へ

遠足、校外学習、修学旅行、授業の一環などで、ぜひ当館をご活用ください。「こんなことができる?」などのご相談も受け付けておりますので、お気軽にご連絡ください。

- 問い合わせ先: 045-663-3257(代表電話)
- E-mail: jicayic_jomm_info@jica.go.jp

リニューアル後の企画展示第1弾

外交史のなかの海外移住～それぞれのはじまり～(仮)

常設展示室リニューアルオープン後の第1回目の企画展示は、外務省外交史料館との共催展示「外交史のなかの海外移住～それぞれのはじまり～」(仮)に決定しました! 海外移住の背景には、移住者を保護するために外交関係の樹立が不可欠です。日本外交史の流れを軸として、主な移住先国との外交関係の樹立を示す、外交史料館所蔵の貴重

な条約調印書や批准書のほか、移住の始まりを語る外交文書等を展示するとともに、移住資料館所蔵の、戦後移住の再開と募集や送り出しに関わる史料で移住の歴史を辿ります。

企画展示は、2022年7月2日(土)～8月28日(日)に開催。この機会にぜひ貴重な史料をご覧ください。

6月20日は国際日系デー!!

記念企画 トークショー

「ニッケイ人ってなに? 日系新世代に聞く」

6月18日は「海外移住の日」、そして6月20日は「国際日系デー」です。これを記念したトークイベントが6月19日(日)10:00よりオンラインアプリZoomでライブ配信されます。出演は、2021年に行われた「国際日系デー」の公式ロゴマークコンクールにて、見事その作品が1位に選ばれた、ペルー日系四世・伊藤見満さん、国際日系デーの発案者である、アルゼンチン日系二世の比嘉アンドレスさんとペルー日系三世の伊佐正アンドレスさん、そして、沖縄にルーツを持つ日本生まれ鶴見育ちのブラジル日系三世・安富祖樹里さんの4名です。

イベントでは、伊藤さんにロゴマーク優勝作品に寄せた思いや、自身の日系アイデンティティについて伺うほか、比嘉さんと伊佐さんには、国際日系デーを提案した動機やその思いについて、安富祖さんには日本で暮らす若い世代の日系人のアイデンティティについてもお話頂く予定です。聞き手はアルゼンチン出身の日系二世・松本アルベルトさん。

イベントへの参加方法等詳細は、海外日系人協会のWEBサイトで公開予定です。お楽しみに!

20 de junio

DÍA INTERNACIONAL DEL
NIKKEI

「国際日系デー」公式ロゴ
マークに選ばれた
伊藤見満さんの作品

【お知らせ】

第三回 JICA 海外移住「論文」 および「エッセイ・評論」募集 「日本人の中南米への移住」

日本国内における外国人とのよりよい共生が課題となるなか、JICAでは、日本人の海外移住150年以上の歴史に対する理解と関心を高めることを目的に、2019年に「JICA海外移住論文」を創設。現在第3回の募集を行っています。

日本人の中南米への移住に関する様々な研究結果およびエッセイ・評論を募り、優秀な作品を発表することで日本人の海外移住の歴史に対する理解と関心を高め、多文化共生など今日的な社会課題への気づきを得ることが狙い。募集しているのは、「懸賞論文部門」と「エッセイ・評論部門」の2部門で、どなたでも応募いただけます。

■応募締切: 2022年6月30日(木) 日本時間 23:59必着

■問合せ先: JICA横浜 海外移住資料館 論文事務局 (公益財団法人海外日系人協会内)

Tel: 045-211-1783 Fax: 045-211-1781

E-mail: article@jadesas.or.jp

※応募様式、応募先など詳細は以下のページをご覧ください。

<https://www.jica.go.jp/jomm/whatsnew/2021/211228.html>



- みなとみらい線:**
「馬車道」駅(4番出口)から徒歩約8分
「みなとみらい」駅(クイーンズスクエア方面改札)から徒歩約15分
- JR線・市営地下鉄:**
「桜木町」駅から(汽車道→ワールドポーターズ→サークルウォーク)徒歩約15分
- 市営バス:**「ハンマーヘッド」から徒歩約2分
- 開館時間 10:00～18:00(入館は17:30まで)
●休館日 月曜日(月曜日が祝祭日の場合は翌日)
●入館料 無料



独立行政法人国際協力機構 横浜センター
海外移住資料館

〒231-0001 神奈川県横浜市中区新港2丁目3番1号 TEL.045-663-3257 FAX.045-222-7162

<https://www.jica.go.jp/jomm>

Eメール
jicayic_jomm_info@jica.go.jp

